

ピラミデー＝(旧名ピラミッドメソッド)を導入した幼稚園の教育内容

ピラミデーの理論のすべてが集約されるのが、テーマ展開による「プロジェクト」と呼ばれ教え方です。

ピラミデーには八つの発達領域があります。(当然、日本の五領域も含まれていますが、アメリカのガードナー博士の多重知能説からの導入です。) 八つの領域の一つ、子どもを取り巻く環境を探索させる「世界を探索する(ワールドオリエンテーション)」という領域があります。この領域を学ぶためのテーマが『水』です。教科(読む、数える、考える等)をテーマから学ぶのがピラミデーの特長です。そして、これらのテーマを4週間(時にはそれ以上)かけて学びます。教科的な知識を暗記ではなくて、体験を通して確実に身につけさせる教育法です。

テーマ展開は次の流れで行います。(5歳児クラス)

何を学ぶのか

自分たちが使用した水が、その後どうなっていくのか、自分たちを取り巻く周りの環境に目を向けることが目的です。

(写真1)



(写真2)



玄関ディスプレイの壁面。雨が降って、その雨水はどこへいくのかを表しています。

(写真3)



(写真4)



(写真5)



雨の中、雨具を身につけて園庭を散歩しました。普段は何気なく見ている雨ですが、注目して見てみると様々な発見があったようです。

第1週目:「なんだろう!？」のとりにくみ(何をするのか説明する:オリエンテーション)

① 玄関には、雨が降ったときに雨水がどのように流れていくのかを表した壁面を飾りました(写真1参照)。子どもた

ちは、この壁面をみて、子どもたちはまず雨が降っている事に注目し、実際に雨水が川を伝って海へ流れていくのか見てみたいという興味を持ち始めました。(写真2参照)。

② そこで、雨の日にカッパを着たり、傘をさしたりして、園庭を散歩しました。(写真3、4参照)。カッパや傘にあたる雨粒の音に耳を澄ませたり、水たまりに雨粒が落ちたときの水たまりの様子を観察したりすると、「水たまりに雨が落ちると、丸い模様がたくさんできるね!」「お花は雨の水も飲んでる。」などと発言し、体験した事のある事柄でも、その事柄に着目して注意深く観察すると、子どもたちの中で、新しい発見があったようです。

③ 雨粒をカップにためてみると、「雨がピシャってはねたよ。」「雨って飲んでも大丈夫なのかなあ?」と友達同士で会話をしている様子が見られました(写真5参照)。

④ 子どもたちの発言を受けて、もう一度玄関の壁面を見てみると、「雨が川を流れているよ。」「田んぼにも水があるよ。」ということに気付いていました。次の段階では雨が川を流れる様子、田畑の農作物へ使用する様子に着目していきます。

(写真6)



生活排水が溝に流れている様子を見えています。

(写真7)



園の近くで米を作られているご家庭を尋ね、見学させていただきました。

(写真8)



幼稚園の周りには蓮田もあり、10月中旬にはレンコン掘りの様子も見に行っています。

(写真9)



園庭の砂場で、玄関ディスプレイと同じように山、川、田んぼ、海などを作って水を流して遊んでいます。

(写真10)



第2週目：「みてみよう！」のとりくみ(具体的に体験させる)

- ① 玄関に飾られた壁面を見ながら家の外のどこに水があるのかを聞いてみました。「雨」「海」「川」「田んぼの中」など見つけた場所を子どもたちが発表し、その場所へ実際に出かけていき、知識を広げていきました(写真6, 7参照)。
- ② 幼稚園の周辺を散歩していると、田んぼの他にも蓮田や畑で栽培している野菜などにも目を向け、「大きく育つ為には水があるんだ。」と友達同士で会話をする姿も見られました(写真8参照)。家で使用した生活排水がパイプをつたって、溝へ流れている瞬間に出くわし、「水って、使ったらこういうふうの流れていく。」と新たな発見があったでした。
- ③ さらに普段の泥んこ遊びの中で、玄関ディスプレイの壁面のように大きな山を作り、その山から川へ流れていく様子を観察しながら遊んでいました(写真9、10参照)。泥んこ遊びをしながら「山の方が高いから、水は下へ流れていく。」と水の性質を理解した発言が子どもたちから聞こえてきました。

次の段階では、生活排水はどこへ行くのか、玄関ディスプレイの壁面のように海までつながっているのかに着目して見ていきます。

(写真11)



(写真12)



(写真13)



(写真14)



(写真15)



(写真16)



地域の方々のご協力のもと、溝から川、海へとつながる水路のそばを散歩しました。水の流れをたどって行った先の海を見た子どもたちは、「本当に海に着いたね。」と感動を表していました。

第3週目：「どうしてそうなるの？」のとりくみ(理解を広げてあげる)

- ① 幼稚園からバスに乗って、近くにある川をたどっていき、川の水が海へと繋がっていることを実際に見ていきます。(写真11、12、13、14参照)。散歩に行く前にご協力していただく地域の方から、この地域にまつわる水に関するいろいろなお話をいただきました。
- ② 浜辺では複雑な形をした貝殻を探したり、生息している生物を観察して楽しみました(写真15、16参照)。カニや

ヤドカリ、様々な形の貝殻など自然のままの姿の生物たちに、子どもたちは興味津々な様子でした。

五感をすべて使った実体験を通して、子どもたちには更なる探究心が芽生え、「あの海の先には、どうやっていくの？」「船で行くんだよ。」「どこにたどり着くのかな？」と友達同士で想像しながら会話を楽しむ姿がみられました。

(写真17)



地球儀から海のつながりを知っていきます。

(写真18)



2月のあるお遊戯会では、このプロジェクトを題材にした、世界に目を向けた創作劇を行いました。

(写真19)



(写真20)



(写真21)



前の段階で実際に見てきた、雨が川を伝って海に流れていく様子を再現しながら遊んでいます。

第4週目：「もっとしりたいな！」のとりくみ(理解を深めてあげる)

自分で雨を降らせて見よう！

- ① 溝から川、海までの道のりを歩いた子どもたちは、自分たちの家で使用した水が、川をつたって海まで流れていくことを知りました。ここでは、前回の子どものつぶやきから、海を進んでいくと本当に他の国へ行けるのか、また散歩をした時に見てきた風景を自分で作り出して遊ぼうということで、幼稚園の近くにある山から川をたどって海へ流れていく様子を自分たちで表現してみました。
- ② まずは、海がどのようにつながっているのか、世界へ目を向けるために地球儀をお部屋に置きました(写真17参照)。自分たちの住んでいる地域が、世界から見るととても小さいことにとても驚いていました。さらに、「世界にはいろんな国があるんだね。」「アメリカってテレビで見たことがあるよ！」「このあいだ見た海から他の国へ、海をたどっていけばいけるんだね。」と友達と話していました。

③ 次に箱庭を用意し、その中に山、川、家、船などを紙粘土で作ったジオラマを用意し(写真19参照)、じょうろから流れる水を雨水に見立てて、実際に見てきたものを自分たちで表現して遊びました(写真20, 21参照)。

箱庭を使って自分たちで雨を降らせてみると、「川を流れていくと海につながるんだ!」「見てみて! 船が浮かんできたよ!」と箱庭の中の変化をお友だちと楽しむ姿が見られました。

④ また、水の違った一面にふれるということで、私たちの地域では大雨に見舞われた年があったのですが、この箱庭で遊びながら、土砂災害のときのことを思い出し、「大雨のときは、水が沢山たまるからお家に水がたまってきて危ないね。」という発言が子どもたちからありました。

プロジェクトテーマ「水」を終えて

「水」のプロジェクト幼児教育では「水」というものを、いろいろな角度から子どもたちにふれることができるような取り組みを行いました。年少3歳児では、水遊びや水を使ったごっこ遊びで、遊びながらも水の性質に気付くことができました。年中4歳児では、年少3歳児のように水遊びをしながらも「家の中の水」に着目し、水の用途に注目できるようにしていきました。年長5歳児では、「水」が生活に欠かせないもので、そこから世界を想像すること、自然の雄大さに気付くことができました。

また、子どもたちの理解到達は個人によって差があります。そのため全体での活動をした後、全員で共通理解をするために、朝と降園前のサークルタイムの時間を利用して、ひとりひとりが皆、同じように理解ができるようにしていきました。疑問をクラスみんなに投げかけ、子どもたちが質問できる時間を設けることで理解はさらに深まっていったように感じています。

(山口県防府市中関幼稚園の報告より)

(注: ピラミードのテーマ展開は、年少、年中、年長と同じテーマを展開します。3年かけてテーマを学びますが、年少は現実的に目に見える内容を、年中は子どもの生活範囲から少し離れた内容を、年長は想像的な抽象の世界に導きます。確実に知識を肌身で学ばせるこの方法は、世界的に学力の高いフィンランドやスウェーデンにおいても導入されています。)